

第7章ではこれからの伊丹市の地域福祉を推進するための基本的な体制について述べました。本章ではそうした中で、個々の市民が、そのニーズに合った適切な支援を受けることにより、地域社会において豊かに生きていくためにはどのような現状と課題があるかについて考えます。

さまざまな課題や困難を抱えた市民にとって提供されるサービスや支援は、その人にとってどのようなものとして役立っているか、サービスや支援へのアクセスの過程においてバリアやハードルはないか、さまざまなニーズに対応できるサービスや支援は用意できているかなどの問題への取り組みは、前章までに述べてきたこれからの地域福祉の目標を実現する上で最も大きな決め手となるものと言っても過言ではないでしょう。

今までは、こうした問題の分析などはサービスや支援を実施する「提供側」の視点から行われることが多かったのですが、真の意味で地域福祉を実現するにはサービスや支援を受ける「利用側（市民側）」の視点から行うことが必要です。

本章ではこのような視点に立って、第1節と第2節において、地域社会において課題や困難を抱えて生きる個人に対する支援のあり方やサービスの再編と開発、第3節では、それらの基盤となる市民参加の問題やまちづくり、第4節では、この地域福祉計画を真に生きたものにするための評価や今後のあり方などについて考えます。